

望観天 氣天

新春特別

逆境の中にこそ、「夢」がある

全国から大きな支援を受け、2016年の熊本地震から着実に復興の歩みを進めている最中に、新型コロナウイルスの感染が拡大し、7月には豪雨災害が発生するなど、本県は、いわばトリプルパンチの逆境のなかにあります。

令和2年7月豪雨による県内の農林水産関係への被害も1019億円と甚大で、この30年では熊本地震に次ぐ2番目の規模となり、とくに、球磨川流域はかつてないほどの打撃を受けました。私は、被災された皆さまが将来にわたって「夢」や「誇り」を持って生活できるよう、昨年11月には、「令和2年7月豪雨からの復旧・復興プラン」を策定し、1日も早い復旧・復興に向けた取り組みはもとより、5年後、10年後を見据えた取り組みとして、「『緑の雇用』の創出」や「農地の大区画化（生産性の向上）」など、創造的復興を進めていくこととしています。

また、コロナの収束が見通せないなか、農林水産業にも売上減少などの影響が生じています。農林漁業者が安心して経営を継続できるよう、本県独自の金融支援制度の創設や県産農林水産物の消費喚起・拡大など切れ目ない支援に取り組んでいます。

農林水産業を取り巻く情勢は厳しいものがありますが、農業研修生として渡米した経験もある私は、知事就任直後から、農林水産業を県政の重要課題と位置づけ、「稼げる農林水産業」をめざして取り組んできました。その結果、本県の農業所得は熊本大地震にも負けることなく、知事就任時から大幅に増加しています。

TPP（環太平洋パートナーシップ協定）などグローバル化がますます進展するなかにあっても、ピンチをチャンスと捉え、世界的な人気を集めているくまモンと力を合わせて、海外プロモーション・販路拡大にも果敢にチャレンジしていきます。

全国の農林漁業者の皆さまと、この大逆境の先には、明るい夢があると信じ、「稼げる農林水産業」、さらには「ふるさとを支える農林水産業」を実現していきますように。



蒲島 郁夫

熊本県知事

かばしまいくお

1947年熊本県生まれ。68年農業研修生として渡米。74年米国ネブラスカ大学農学部卒業。79年ハーバード大学大学院修了（政治経済学博士）。帰国後、筑波大学教授、東京大学法学部教授を歴任。2008年より現職に就任（現在4期目）。東京大学名誉教授。